

事例② 4つの視点『 ゆったり 』 5歳児クラス・4月～7月
期のねらい「年長になったことを喜び、自覚を持ちながら行動しようとする。」

「安心と自信が引き出す“その子の力”」

園のくらし、子どもの姿

一昨年の3歳児クラスの頃は、活弁な姿が多く見られる一方で、自分の思い通りにしたいと強い口調で主張したり、時には手や足が出てトラブルになったりすることも多くありました。大人（保育者）との関わりを求め甘えたい子、不安そうに周りを見ている子、表情が硬く、遊びや友だちとの関わりに対して消極的な子…。1クラス25名の子もたちそれぞれの思いや個性が交錯する中、私たち保育者は安心して園生活を送れること、「やりたい！」と思える遊びがたくさん見つけれられること、周りに認められながら自己肯定感を高めていくことを大切にしてきました。一人ひとりの思いを受け止める、時間をかけてやりとりする等、丁寧な関わりは担任だけでは十分に行えないこともありましたが、そのような時には、周りの職員と連携しながら丁寧な理解と関わりを心掛けてきました。

あそびのはじまり

普段の遊びや生活では、遊びたいものや場所を出来るだけ自分で選択して過ごしています。絵は、描くことが好きな子もいれば、あまり興味がない子もいました。一斉活動の中で描くことはせず、自分がやりたいと思った時に楽しめるような環境を用意しながら、一人ひとりの様子を見つめていきました。

あそびの広がり、あそびの深まり

《子どもの様子》

■「せんせい、あのね」思いを表出する姿



友だちを見ていることが多かった子が、自分から生き生きと絵を描く姿そこに寄り添う保育者

■興味の広がりや自信へのつながり 「もっと描きたい！」「みてみて！」



この足は大きくて曲がってるんだ

図鑑を見ながら描いたヘラクレスオオカブト

つながり 《保育者の お願い・思い ◎配慮事項》

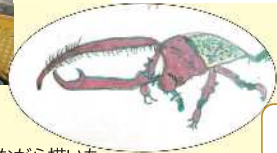
○自ら始めた遊びを安心できる環境のもと、じっくり楽しんでほしい。
○保育者や友だちに認められる中で自信をつけてほしい。

友だちや保育者のしていることに興味をもち、その様子を見ることが多かった男児A。ある日園庭の地面に絵を描いていたところを保育者が見逃さずに寄り添う。

◎絵を描きながら発する本児の話を一つひとつ丁寧に返し、やりとりを繰り返しながらイメージが広がっていくようにする。また、無理に聞き出すのではなく、本児のペースに合わせたやりとりをしていく。
◎「もっと描きたい！」と次への意欲に繋がった際には、他児にはまだ見られたくないという本児の気持ちを受け止め、他の落着ける空間（事務所）を用意し、じっくりと描けるようにする。

園庭で捕まえた虫を観察しながら絵をかく男児B。

◎子どもの気付き、つぶやきを拾い共感していく。また、周りの児らにもさりげなく知らせ、本児の姿や遊びを共有していく。
◎捕まえた虫から生き物への興味や関心に繋がっていけるよう図鑑を用意する。



描いてあげようか？

…すごいなあ！



学びの芽生え、10の姿につながるポイント

① 愛されて育つ（1 健康な心と体）

園は子どもたちの生活の場であるからこそ、様々な姿が見られます。時には心が不安定になることや、自分の思いを出し切れずにいることもあります。そうした子どものやるせない思いも保育者はしっかりと捉え、向き合い、思いを受け止め、安心を満たしていきます。安心が満たされることで生まれる「やりたい！」。その子の「やりたい！」を育み、喜び、そして叶えられるよう、園内の保育者みなで創意工夫を図っています。

② 保護者・地域と共に「みんなで育てる」（5 社会生活との関わり）

「『その子の好き』はなんだろう？」「『そういえばこの間、園庭でこんな姿を見かけたよ』『そんな姿、素敵だね』」など、クラスの垣根を超え、職員同士でその子を語り合う環境は、「みんなで育てる」意識を醸成しています。適切な子ども理解は、その子に関わる人たちの多様な視点が生かされているからこそでしょう。

《教材等の工夫》

■「心の拠り所」としての事務所



いつでも・だれでもどうぞ。

事務所での時間も、子どもたちにとっての大切な有意義な時間



事務所の一角に、遊びスペースを設けた。自分の好きな遊びをしたい子、ゆっくり過ごしたい子、気持ちを落ち着けたい子…

だれもが自由に使える（保育者が受け入れる）ことで事務所は子どもたちにとって心の拠り所となった。

保育室だけでなく、事務所にも子どもたちの絵を飾るスペースを設けた。事務所は職員が過ごすことも多い為、飾られた絵をきっかけに子どもの姿を話すことがより増えた。

また、絵を見た保育者が子どもたちに声を掛けることで、子どもたちの「見せたい」、「認めてもらいたい」という気持ちが満たされ、「もっと描きたい」「あれ（お絵描き以外のこと）も頑張ろう」と意欲や自信へとつながり、生き生きと生活する姿が見られた。

〇〇くんの絵、素敵だね！

そういえば、この間〇〇くんのこんな姿も見たよ！



クラスの垣根を超えて、職員みんなの話題へと上がっていく

保育者の気付き、その後の子どもの育ち

絵を描く場面以外においても、他者から認められる経験を積み重ねることを通して、様々なものへと興味が広がり、自信をもって取り組む姿がみられるようになりました。園全体で子どもをみていくことは、保育者の心のゆとりにつながるだけでなく、子どもたちにとって心の拠り所（安全基地）が増えていくことにつながりました。一人ひとりの思いが満たされることで、クラスの活動へも自信をもって参加しようとする姿が見られるようになりました。

小学校教育との円滑な接続

入学後すぐに「すきなもののいっぱい」という題材で絵を描きます。描きたい子どもの思いを尊重し、子どものありのままの表現を受け止めることを大切にしながら、授業の中で一人ひとりの子どもと丁寧にかかわっていきます。鑑賞する時は、子どもたちは自分の好きなものについて話してくれます。授業や生活の中で、担任教員とのかかわりを深めながら、安心して自分を表現し、自信をもって学校生活を送る姿につながっていきます。

本事例とつながりが深い「10の姿」

1 健康な心と体

5 社会生活との関わり

小学校教育活動との関連

1年 図画工作科
「すきなもののいっぱい」等